

8. 学校保健についての対応ガイドライン 目次

1. ナースルームの基本的な取り組み

(健康管理、健康教育、健康相談)

2. ナースルームについて

- 1.保健室を利用できる時
- 2.ナースルーム利用時の留意事項
- 3.健康に関する相談

3. 応急処置について

- 1.HR 担任、専科教員の対応
- 2.ナースルームでの怪我や事故の対応
- 3.保護者への連絡
- 4.ナースルームでの体調不良時の対応
- 5.早退基準と早退方法
- 6.校内での薬の服用
- 7.PE 及び校内活動の制限

4. 修学旅行、フィールドトリップ

5. 感染症対策

1. 発生状況の把握と情報共有
2. 感染拡大防
3. アタマジラミ
4. 学校感染症と出席停止基準
- 5.幼稚園における感染症対策ガイドライン

6. 熱中症対策

1. 熱中症になったとき
- 2.TWIS での熱中症への取り組み

7. アレルギー疾患のある児童への対応

- 1.対応の流れ
- 2.健康調査
- 3.エピペン

8. No Nuts Policy

9. 児童健康診断

学校保健ガイドライン

1. ナースルームの基本的な取り組み

- ・学校管理下における応急処置、健康管理、健康相談への対応を行う
- ・学校保健安全法に基づく定期健康診断の計画・実施・事後対応を行う

2. ナースルームについて

1.保健室を利用できる時

- ・怪我をした時
- ・体調が優れない時
- ・悩み事や不安に感じることの相談
- ・健康相談

2.ナースルーム利用時の留意事項

- ・授業中の利用は、必ず HR 担任又は授業担当の教員に許可を得る。
- ・児童・生徒の預かり薬を除き、経口薬は児童に与薬しない。
- ・休息は原則 1 クラス以内とする。
- ・ナースルームではスクールナース及びアドミンスタッフの指示に従う。

3.健康に関する相談

- ・園児・児童の健康面についての面談希望があれば、スクールナース、アドミン、保護者で面談を行う。面談希望時はアドミンオフィスへ連絡し、日程を調整する。

3. 応急処置について

○緊急対応

スクールナース及び学校の判断で緊急治療が必要と判断された場合、スクールナースが児童・生徒に対して救命処置を実施すること、また、児童・生徒が学校のスタッフまたは救急車によって近隣の救急治療室に運ばれる可能性がある。

○ナースルームでの応急処置

スクールナースが必要と判断した場合に、以下の市販薬を児童・生徒に使用する可能性がある。保護者は、市販薬使用の可否を含め、スクールナースが児童・生徒に必要な処置を施すために把握しておくべき子どもの情報を事前に提供する必要がある。

- ・のど飴/咳止めドロップ
- ・軟膏：抗菌・抗ヒスタミン・ワセリン
- ・蚊に刺された場合のかゆみ止め製品：パッチ、クリーム
- ・発熱用コールドジェルシート

- ・捻挫や筋肉痛の湿布（小学部以上）

児童・生徒がスクールナース又は他の医療専門家によって必要と判断された上記の緊急対応およびナースルームでの応急処置を受けた結果生じたいかなる結果についても、保護者は学校、関連会社、その役員及び従業員に対して、訴訟、苦情、法的措置を講じないものとする。

1.HR 担任、専科教員の対応

- ・極軽度な擦過傷等、教室内の First Aid Kit で対応可能な場合は担当教員で対応する。

2.ナースルームでの怪我や事故の対応

- ・教室内の First Aid Kit では対応できない怪我の場合にスクールナースが処置を行う。
- ・ナースルームでの手当ても応急処置に留め、医療行為は行わない。

3.保護者への連絡

- ・スクールナースは怪我の程度に応じて保護者に電話又はメール連絡する。（経過観察が必要な場合や家庭の判断での受診を勧める場合）
- ・児童同士のトラブルによる怪我は、担任から保護者へ連絡する。
- ・頭部打撲、脳震盪、骨折の疑い、縫合が必要な創傷など、早めの受診が必要な場合は速やかに保護者のお迎えを要請する。

4.ナースルームでの体調不良時の対応

- ・ナースルームで児童が休息している間は、必ずナースもしくはアドミンスタッフが近くに待機する。
- ・必要に応じて児童預かり薬の投与を行う

5.早退基準と早退方法

-37.5°C以上の発熱

-嘔吐、下痢を繰り返す

-激しい腹痛、頭痛、眩暈

-1 クラスを超える休息を取っても症状が改善しない場合

- ・スクールナースが保護者へ連絡し、お迎えを依頼する。
- ・基本的に家族にお迎えにきてもらう。原則届け出のない人物による引き取りは許可しない。

6.校内での薬の服用

- ・原則として、内服は可能な限り自宅での服用とする。
- ・校内での服用が必要な定時内服及び屯用内服は下記手順に従う。

①校内投薬許可書に必要事項を記入する(本校 HP よりダウンロード可能)

-クラス、氏名

-服用時間、服用方法

②服用予定の内服薬、校内投薬許可書、処方箋のコピーをジップロックへ入れる。ジップロックには必ずクラス、氏名を記載する。

③ジップロックをスクールナースへ提出する。

- ・治療内容に変更がある場合は、速やかに内服薬の届け出も変更する。
- ・薬の服用は全てスクールナースの管理下にて行う。
- ・児童本人が持参した日焼け止め、保湿クリーム、虫よけスプレー、虫刺され時のクリーム等は、各教員管理の下教室内での使用を許可する。

7. PE 及び校内活動の制限

- ・怪我等を理由に PE や学校活動に参加できない場合は、医師からの診断書を提出する。
- ・診断書の提出がない場合は、欠席扱いとなる。
- ・PE の受講が免除された場合は、その期間中の学校内でのスポーツや Recess 中の外遊びは禁止とする。

4. 修学旅行、フィールドトリップ

- ①旅行中内服が必要な場合は、校内の服用手順に従い、フォームと薬袋をスクールナースへ提出する。
- ②旅行中の怪我や病気時の医療機関への受診の必要性は、学校が判断する。
- ③旅行中の体調不良時は他生徒から隔離し、スクールナースがケアを行う。保護者に連絡を取り、児童のお迎えを依頼する。

5. 感染症対策

1. 発生状況の把握と情報共有

①症状の確認

- ・保護者はアドミンへ受診状況、診断名、治療内容を報告する。出席停止期間及び登校許可書が必要な疾病であるかも併せて確認する。

2. 感染拡大防止

- ・手洗い、手指消毒、マスク、室内喚起等、感染症対策の徹底を図る。
- ・感染状況に応じて学校内の消毒を実施する。(手すり、教室、ドアノブ、蛇口等)
- ・流行状況に応じ、起床時、就寝前の検温を実施する。
- ・発熱など感染兆候を認める際は、登校しない。
- ・学校内で体調不良の訴えがある場合は早退をすすめ、保護者のお迎えを依頼する。
- ・学校生活やイベントは、感染状況を踏まえて実施方法を検討する。
- ・学校保健安全法第 19 条(出席停止)に基づき、校長は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。
- ・保護者へスクールメールにて発生状況を説明し、体調管理、健康調査、感染予防策について理解・協力を要請する。
- ・学校保健安全法第 20 条(臨時休業)に基づき、学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

3. アタマジラミ

学校における集団生活では身体が触れ合う機会も多く、アタマジラミが流行する可能性がある。早期発見・予防流行の拡大防止のため、発生した場合は早急に対処することが不可欠となる。

発見された場合は、状況把握のため学校へ連絡し以下の指示に従う。

- ・アタマジラミ専用シャンプーとブラシ(髪の毛くし)を購入し、指示に従って使用する。
- ・家族全員の頭皮をチェックし、必要であれば治療を受ける。
- ・児童生徒が登校する際は、学校へ登校許可書を提出する。

4. 学校感染症と出席停止基準

- ①登校許可書(当校ホームページよりダウンロード可能)

- ・児童は登校再開日に医師が作成した登校許可書をアドミンオフィスへ提出する。

学校保健安全法施行規則第 18 条(感染症の種類)及び第 19 条 (出席停止の期間の基準)

学校感染症と出席停止の基準			
分類	病名	出席停止の基準	
第 1 種	(※)	治癒するまで	
第 2 種	インフルエンザ	発症後 5 日、かつ、解熱後 2 日(幼児 3 日)が経過するまで	
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5 日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで	
	麻疹(はしか)	解熱した後 3 日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5 日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで	
	風しん	発疹が消失するまで	
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後 2 日を経過するまで	
	結核	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
第 3 種	コレラ	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	細菌性赤痢	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	腸管出血性大腸菌感染症	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	腸チフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	パラチフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	流行性角結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	急性出血性結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	その他の感染症	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後 24 時間を経て全身状態が良ければ登校可能
		ウイルス性肝炎	A 型・E 型: 肝機能正常化後登校可能 B 型・C 型: 出席停止不要
		手足口病	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
		伝染性紅斑	発疹(リンゴ病)のみで全身状態が良ければ登校可能
		ヘルパンギーナ	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
		マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
		感染性胃腸炎(流行性嘔吐下痢症)	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
		アタマジラミ	出席可能(タオル、櫛、ブラシの共用は避ける)
		伝染性軟属腫(水いぼ)	出席可能(多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける)
伝染性膿痂疹(とびひ)		出席可能(プール、入浴は避ける)	

※第 1 種学校感染症: エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、急性灰白髄炎(ポリオ)、鳥インフルエンザ(H5N1)など

※新型コロナウイルス感染症は「第 2 種感染症」に位置付ける。出席停止期間の基準を「発症から 5 日間経過し、かつ、症状軽快後 1 日を経過するまで」とする。(2023/5/8 学校保健安全法施行規則改正)

※アタマジラミ対応の詳細は 5-3.アタマジラミに従う

5. 幼稚部における感染症対策ガイドライン

登園を控えて頂くケースについて

厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿った登園基準となります。

下記の基準を守って登園してください。

1. 発熱時

- ・ 24 時間以内に 38℃以上の熱が出た場合
- ・ 24 時間以内に解熱剤を使用している

・朝から 37.5°Cを超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が摂れていないなど全身状態が不良

2.下痢

- ・24 時間以内に複数回の水様便がある
- ・食事や水分を摂ると下痢をする
- ・下痢と同時に体温がいつもより高い
- ・朝に排尿がない
- ・機嫌が悪く元気がない
- ・顔色がぐったりしている

3.嘔吐

- ・24 時間以内に複数回の嘔吐がある
- ・嘔吐と同時に体温がいつもより高い
- ・食欲がなく、水分も欲しがらない
- ・機嫌が悪く元気がない
- ・顔色が悪くぐったりしている

4.咳

- ・夜間しばしば咳の為に起きる
- ・ぜいぜい音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある
- ・呼吸が早い
- ・少し動いただけで咳が出る

5.発しん

- ・発熱とともに発しんのある場合
- ・感染症による発しんが疑われ、医師より登園を控えるよう指示された場合
- ・口内炎がひどく食事や水分が摂れない場合
- ・発しんが顔面等にあり、患部を覆えない場合
- ・浸出液が多く他児への感染の恐れがある場合
- ・かゆみが強く手で患部を掻いてしまう場合

学校で上記の症状が見られた場合は翌日の登園は控えてください。翌日に登園される場合は、医師からの「登園許可証」をご提出ください。(添付許可書参照)

ご不明な点がある場合は、登園する前にアドミンオフィスまでご連絡ください。

6. 熱中症対策

1.熱中症になったとき

1.重症の熱中症を判断するポイント

- ・高い体温
- ・赤い・熱い・乾いた皮膚（全く汗をかかない、触るととても熱い）
- ・ズキンズキンとする頭痛
- ・めまい、吐き気

- ・意識障害（応答が異常である、呼びかけに反応がない等）

2.応急処置

①涼しい環境への避難

- ・風通しの良い日陰や、クーラーが効いている室内(Meeting room など)へ避難し、体を冷却する。

②脱衣と冷却

- ・衣類を緩め、体からの熱放散を助ける。
- ・前頸部(首の付け根)、腋窩部(脇の下)、鼠径部(大腿の付け根)をアイスパックで冷却する。
- ・濡らしたタオルなどを皮膚に当て、扇風機やうちわで風を当てて体を冷却する。

③水分・塩分補給

- ・経口補水液やスポーツドリンクを与える
- ・意識障害、嘔気や嘔吐の症状があれば誤飲リスクがある為、飲水は禁忌。

④医療機関へ運ぶ

- ・自力で水分の摂取が出来ない場合は、点滴治療の必要がある為緊急で医療機関に搬送する。
- ・救急車を要請する場合も、到着前から冷却を開始する。

2.TWIS での熱中症への取り組み

- ・気温の上昇する5月後半頃より始業前に WBGT を確認し、Faculty に注意喚起を行う。
- ・6月以降は Recess、PE での帽子着用を必須とする。
- ・気温が上昇する時期に合わせて、Tent に扇風機、Field に Mist を設置する。
- ・気温や湿度を把握し、それに応じた運動・水分補給を計画的に実施する。

気温 (参考)	WBGT 温度		熱中症予防運動指針
35℃ 以上	31℃ 以上	運動は 原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合は中止すべき。
31℃ } 35℃	28℃ } 31℃	厳重警戒 (激しい 運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。 体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28℃ } 31℃	25℃ } 28℃	警戒 (積極的に 休息)	WBGT25℃以上では熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24℃ } 28℃	21℃ } 25℃	注意 (積極的に 水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃ 未満	21℃ 未満	ほぼ安全 (適宜 水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※（公財）日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（2019）より

7. アレルギー疾患のある園児・児童への対応

1.対応の流れ

- ①アレルギー疾患のある児童は必ず Medical Certificate、アレルギー証明書を学校へ提出する。
- ②保護者との情報共有

- ・必要時はスクールナース、アドミン、保護者で面談を行う
- ・重度のアレルギーがある場合は、スナックやスクールランチの提供ができない場合がある。
- ・学校と保護者で緊急時の対応を事前に確認しておく(エピペン、内服薬、保管場所)

2. 健康調査

- ・次年度も本校に進級する児童は、学校の配布する Confirmation sheet を毎年提出すること。
- ・学期中、学校へ申告していないアレルギーや病気に罹った場合は、速やかに学校へ報告する。

3. エピペンについて

①校内にて緊急時にエピペンを使用する必要がある園児、児童は下記手順に従う。

1 エピペン投与許可書に記載する

-クラス、氏名

-アレルギー名、緊急連絡先

-本人の顔写真(スナップ写真可。直近の写真を貼る)

2 エピペンと投与許可書をジップロックへ入れる

3 ジップロックにも必ずクラス、氏名を記載する。

4 スクールナースへジップロックを提出する。

※エピペンは必ず2つ用意する。1本はナースルーム保管用、1本は園児、児童携帯用となる。

②保護者は使用期限が切れる前までに新しいエピペンを提出する。

③エピペン使用時は救急車を要請する。

8. No Nuts Policy

全ての学校行事で No Nuts Policy(ナッツ類の排除)の徹底:

下記リストを参照の上、学校内に持ち込むことのないようにする。

持込みを禁止しているナッツ類一覧:

リストに無いものは、以下のウェブサイトで確認する。

<https://www.kidswithfoodallergies.org/tree-nut-allergy.aspx>

<https://www.kidswithfoodallergies.org/peanut-allergy.aspx>

持込みを禁止:

- アーモンド
- ブラジルナッツ
- カシューナッツ
- 栗
- ヘーゼルナッツ
- マカデミアナッツ
- ピーナッツ
- ピーカンナッツ
- 松の実
- ピスタチオ
- クルミ



ナッツ類は様々な形態で流通しており、微量でもアナフィラキシーショックを発症することがある。以下も含めて学校内へ持ち込む事が無い様にする。

オイル、エッセンス、エキス等: アーモンドエキス

粉末状: アーモンドパウダー、ヘーゼルナッツパウダー

クリーム状: ピーナッツバター、Nuttela®(ヌテラ:含ヘーゼルナッツ)

スナック・菓子等:ナッツ入りグラノーラ、ナッツ入りチョコレート、柿ピー 等

9. 児童健康診断

- ・身長測定、体重測定、内科検診を年に2回実施。
- ・学校保健安全法第5条より、法第13条第1項の健康診断は、全学年6月30日までにを行うものとする。

8. School Health-Support and Guidelines

1. Support From School Nurse

2. Nurse Room

1. When to use nurse room
2. Rules of nurse room
3. Health consultation

3. First Aid

1. Care from HR teachers and specialist teachers
2. Care from school nurse
3. Contacting parents
4. When students are sick
5. Early pick-ups
6. Administration of Medication during school hours
7. No Physical Education/Activity Guidelines

4. Overnight Trips and Field trips

5. Communicable Diseases

1. Sharing information
2. Preventing the spread of communicable disease
3. School communicable diseases and suspension of attendance
4. Attending guideline of kindergarten

6. Heat Stroke

1. When kids get a heat stroke
2. TWIS guideline of heat stroke

7. Allergy

1. Procedure
2. Health survey
3. Epi-pen

8. No Nuts Policy

9. Student Health Check-up

School Health Guideline

1. Support From School Nurse

- Providing first aid, health management and health consultation.
- Planning and executing health check-up according to Japanese school law.

2. Nurse Room

1. When to use Nurse Room

- Injury
- Not feeling well
- Having concerns and worries
- Health consultation

2. Rules of Nurse Room

- Students must get a permission from either HR teacher or specialist teacher when they visit nurse room during class.
- Students are not allowed to take school oral medicines except for medicines submitted by parents officially.
- Rest at nurse room is one period in maximum.
- Students have to follow instructions from school nurse and admin.

3. Health Consultation

- If parents/guardians would like to have a meeting regarding child's health issue, school nurse, admin and parents will join a meeting at school.
- Please contact admin office for setting up a meeting with school.

3. First Aid

Emergency Treatment

In case of a medical emergency, Parents/guardians understand that the school nurse may administer emergency treatment and my child may possibly be transported to a nearby emergency room by Tokyo West International School staff or by ambulance when immediate treatment is deemed medically necessary or in the best interest of my child, as determined by the school nurse or a similarly qualified medical professional.

First Aid

Parents/guardians agree that the school nurse may administer the following over-the-counter medications to my child when deemed necessary by school nurse. As of the date hereof parents/guardians have provided all known information with respect to medical history, known allergies or adverse reactions to medication, including in

connection with the use of over-the-counter medications. Parents/guardians agree to promptly notify the school nurse of any changes to such information.

- Throat lozenges/Cough drops
- Ointments: Anti-bacterial, Anti-Histamine, Vaseline
- Anti-itch products for mosquito-bites: Patches, Creams
- Cold gel patches for fevers
- Cold patches for sprain and muscle pain (upper grade schools)

To the full extent permitted by law, Parents/guardians agree not to file a suit, complaint or legal action against Tokyo West International School and its affiliates, and their directors, officers and employees, with respect to any matter relating to or arising from Emergency Treatment and First Aid, when such treatment is deemed medically necessary or in the best interest of students by the school nurse or other similarly qualified medical professional.

1.Care from HR teachers and specialist teachers

- Teachers deal with injuries if it's light enough to use First Aid Kit only in a classroom.

2.Care from School Nurse

- School nurse deals with injuries which are unable to handle by First Aid Kit of classroom.
- School nurse offers First aid only and not providing medical practice.

3.Contacting parents

- School nurse either email or call parents depends on a level of injuries.
- Homeroom teachers report an incident to parents when a case of injuries caused by a trouble between students.
- School nurse asks parents to pick up students when cases of head injuries, concussion, suspected fracture and wound which requires to be stitched.

4.When students are sick

- Either school nurse or admin will stay close to students when they take a rest at nurse room.
- School nurse may use students medicines submitted to school by parents.

5.Early pick-ups

Students need to go home when

- they are not able to recover after taking one period rest.
- their body temperature is over 37.5°C.
- they repeat vomiting and having repeated diarrhea
- having severe stomachache, headache and dizzy
- School nurse calls and asks guardians to pick students up.
- School doesn't allow strangers to pick students up, who are not on the contact list.

6.Administration of Medication during school hours

- All medication should be administered at home as much as possible.

- For cases which requires more frequent medication and is necessary for medication to be taken during school hours, the following steps must be followed:

1. Please fill in Medication Authorization Form. (Blank form can be downloaded from the school website.)

2. All medication needs to be in its original packaging, inside a zip lock.

3. Please write the student's full name and grade outside of zip lock.

4. Please submit medication and Medication Authorization Form to school nurse.

- For each and any change in medication/treatment regimen, a new form needs to be submitted to school.

- All students on medication regimen need to take their medication under the supervision of school nurse at all times.

- Students are permitted to use their own sunblock, body cream and anti-mosquito products in a classroom under the supervision of HR teachers.

- 7.No Physical Education/Activity Guidelines

- Students need to submit medical certificate when he/she can't participate PE or other school activities due to injuries.

- It will be a regular absent if there's no medical certificate.

- If students are excused from physical education during the day, they will not be permitted to participate in any physical activities during school hours.

4. Overnight Trips and Field Trips

- All medications need to be in their original packaging to the zip lock bag labeled with the student's full name and grade.

- In the likelihood of illness or injury during a field trip and an overnight trip, school will assess and decide whether a student requires to see a doctor, and parents will be informed of such an event immediately.

- A student will be isolated from other students and nurse will take care of when a student doesn't feel good during a trip. School will ask parents to pick up your child.

5. Communicable Diseases

1. Sharing Information

①Symptoms

- Parents/guardians are required to report diagnosis, condition and treatment of your child to admin.

Parents also have to check period of absence and whether certificate of permission to return to school is obligated or not.

2. Preventing the spread of Communicable Disease.

- School sanitize handrails, classrooms, doorknobs and faucets depends on the spread of infectious disease.

- Students are asked to check their body temperature upon wakening and before go to bed depends on the spread of infectious disease.

- Students are not allowed to come to school when they have fever and other symptoms are recognized.

- If students don't feel good at school, early leave is recommended and school will ask parents to pick up.

- School events will be rescheduled depends on the spread of infectious disease.

- Principle gives a suspension of attendance to students who get or suspected having infectious disease based on Japanese School Law.

- School informs to guardians via school mail, explaining about infectious disease. School asks parents to take prevention measures of infectious disease at home as well.

- Principle is able to shutdown school if it's necessary according to Japanese School Law.

3. School Communicable Diseases and suspension of attendance

①Certificate of Permission to Return to School (Form can be downloaded from school website)

- Students must rest at home for decided period of time, following Japanese School Law.

- Students submit Certificate of Permission to Return to School signed by a doctor to admin on a first day of returning to school.

School Infectious Disease according to Japanese School Law

Category	Disease	Criteria for suspension of attendance
Level1	※1	Until healed
Level2	Influenza	5 days from the day a fever occurs and 2 days(3 days for kinder) after the fever goes down
	Whooping cough	Until the peculiar cough disappears or until the end of 5 days of proper antibiotic treatment
	Measles	3days after the fever goes down
	Mumps	Five days after the onset of swelling of the parotid gland, submandibular gland, or sublingual gland, and until general condition improves
	Rubella	Until the rash disappears
	Chicken pox	Until all rashes are scabbed
	Pharyngoconjunctival fever (pool fever)	Until 2 days have passed after the main symptoms disappears
	Tuberculosis	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Bacterial meningitis	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
Level3	Cholera	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Shigellosis	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Enterohemorrhagic Escherichia coli	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Typhoid	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Paratyphoid	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Pink eye	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms
	Acute haemorrhagic conjunctivitis	Until a doctor admits that there is no risk of infection due to symptoms

Others	Strep throat	Able to come back to school if your general condition is good after 24hours passed of starting proper antibacterial treatment
	Viral hepatitis	Type A・E : Able to come back to school after normalizing liver function Type B・C : No need to stop attending
	Hand, foot and mouth disease	Attendance is suspended during the acute phase with fever or blisters and ulcers in the pharynx and mouth, attendance is possible if the general condition improves during the healing phase
	Fifth disease	Able to come back to school if you are in good general condition with only a rash
	Herpangina	Attendance is suspended during the acute phase with fever or blisters and ulcers in the pharynx and mouth, attendance is possible if the general condition improves during the healing phase
	Mycoplasma infections	Attendance is suspended during the acute phase, able to come back to school if your general condition is good
	Infectious gastroenteritis	Able to come back to school if your diarrhea and vomiting are alleviated and general condition improves
	Head lice	Attendance is possible (Refer to Head Lice Policy)
	Molluscum contagiosum	Attendance is possible
Impetigo	Attendance is possible (Avoid pools and bathing)	

※1 Ebola hemorrhagic fever, Crimean-Congo hemorrhagic fever, Small Pox, South American hemorrhagic fever, Plague, Marburg hemorrhagic fever, Lassa fever, Diphtheria, SARS, Polio, Bird flu(H5N1)

※Coronavirus infection shall be placed in the category of "Type 2 Infectious Disease. The standard for the period of suspension of attendance is "until five days have passed since the onset of the disease and one day has passed after the symptoms have abated. (2023/5/8 Revision of Enforcement Regulations of School Health and Safety Law)

※Details of Head lice are as follows.

5. Attending guideline of kindergarten

Cases in which children are asked to stay at home due to unusual health condition

The following criteria for attending kindergarten is in accordance with the Ministry of Health, Labour and Welfare's "Guidelines for Prevention of Infectious Diseases in Daycare Centers".

Please follow these standards when your child is attending kindergarten.

1.Fever

- Fever of 38 degrees or more within 24 hours
- Antipyretics have been used within 24 hours.
- In addition to a fever exceeding 37.5 °C in the morning, the child has no energy and is in a bad mood, has no appetite and is not eating breakfast or not taking hydration.

2.Diarrhea

- Multiple watery stools within 24 hours
- Diarrhea occurs after eating or drinking water.
- Diarrhea and higher than usual body temperature at the same time

- No urination in the morning
- Being in a bad mood and lacking energy.
- Lack of energy and tiredness.

3.Vomiting

- Multiple vomiting within 24 hours
- Body temperature is higher than usual at the same time as vomiting.
- Lack of appetite and no desire for taking hydration
- Lack of energy and tiredness.

4.Cough

- Coughing often wakes a child up at night.
- Coughing, wheezing, or dyspnea
- Rapid breathing
- Coughing easily with small movements

5.Rash

- When a child has a fever and a rash
- When the child is suspected to have a rash caused by an infectious disease and instructed by the doctor to refrain from attending kindergarten.
- When the child has a severe canker sore and is unable to eat or drink.
- When the rash is on the face and the affected area cannot be covered.
- When there is too much exudate fluid and there is a risk of infecting other children.
- When the itching is so strong that the child scratches the affected area with his/her hand.

If we observe the above symptoms at the school, we will ask parents to keep children at home for the next day, or request parents to send us a "Certificate of Permission to Return to School" (see attached) **in case your child comes back to school next day**. If there are any uncertainties, please contact the admin office before sending your children to the school.

○Head Lice Policy

As in any situation where especially children play and study together, head lice may be easily passed on. Therefore as there is no sure way to prevent this occurrence, it is essential to treat head lice thoroughly and safely as soon as it occurs.

- Please notify the school nurse if your child has head lice/nits, and follow the instructions below:
 - Those affected will use a special head lice shampoo and a special comb that is purchased locally.
 - The whole family should be checked and treated if needed.
- Upon returning to school, the student is to submit a doctor's certificate or "Certificate of permission to return to school" form found on our school website.

6. Heat Stroke

1. When Kids get a Heat Stroke

①Symptoms

Heatstroke signs and symptoms include:

- High body temperature.
- Disturbance of consciousness
- Dizziness and vomiting
- Red, hot and dried skin (No sweats)
- Headache

②First Aid

- Take a student into shade or indoors.
- Remove excess clothing.
- Cool a student with whatever means available —Place ice packs or cold, wet towels on the person's head, neck, armpits and groin.
- Give a student a sports drink if he/she is able to drink.
- Take a student to ER or call ambulance depends on the condition of the student.

2. TWIS Guideline of Heat Stroke

- School start checking WGBT before school hours from late May.
- It's mandatory to wear a hat from June.
- School provides a water mist at field and fans at tent when temperature starts getting higher.
- School organizes exercise and hydration according the temperature and humidity of each days.

Temperature (for reference)	Wet-bulb globe temperature	Heatstroke Prevention Guidelines	
35°C~	31°C~	Should stop physical activity	Stop any physical activities when WBGT is 31 degrees Celsius and over (unless there is some particular reason to), especially childrens.
31°C ~ 35°C	28°C } 31°C	Severe Risk (Stop any heavy physical activities)	Avoid any physical activities that may cause an increase in body temperature when WBGT is 28 degrees Celsius and over, as there is a high risk of heatstroke. People that are not used to hot climate or exercises should stop any physical activities.
28°C ~ 31°C	25°C } 28°C	High Risk (Take breaks regularly)	Take breaks regularly, keep hydrated and keep the sodium balance when WBGT is 25 degrees Celsius and over, as there is a higher chance of having heatstroke. Take a break every half hour or so when doing heavy physical activity.
24°C ~ 28°C	21°C } 25°C	Medium Risk (Drink water regularly)	When WBGT is 21 degrees Celsius and over, death by heatstroke may occur. Drink water and take in salt regularly and watch out for any signs of heatstroke.
~24°C	~21°C	Low Risk (Drink water when appropriate)	There is only a small risk of having a heatstroke when WBGT is under 21 degrees Celsius, but drink water and take in salt when appropriate. There is still a high chance of having a heatstroke when doing activity like a marathon, so be aware.

7. Allergy

1. Procedure

- ① Students who have allergies, are required to submit Medical Certificate and allergy report by a Dr.
- ② Sharing information with guardians
 - School nurse and admin will have a meeting with guardians when it's necessary.
 - In case of severe allergies, school might not be able to provide snacks and school lunch to a student.
 - School checks procedures of emergency in advance.(EpiPen, Medicines)

2. Health Survey

- Children who will be promoted to TWIS next year, must submit a confirmation sheet regarding allergies and chronic disease.
- If you have any new allergies or illnesses that you have not reported to school during a semester, please report to school immediately.

3. EpiPen

- ① Parents/guardians who would like a first responder to authorize EpiPen administration in the case of an actual or suspected anaphylactic reaction, need to submit EpiPen Authorization Form to school nurse.
 - Please fill in EpiPen Authorization form(A blank form can be downloaded from school website)
- Class
 - Name
 - Allergy
 - Emergency contact
 - Photo of a child
 - Put EpiPen and form inside a zip lock.
 - Please write a student's full name and grade outside zip lock.
 - Please submit an EpiPen and a form to school nurse.
- ※Please provide two EpiPens in each zip locks. One will be kept in nurse room. Another one will be kept in a student's backpack.
- ② Parents/guardians are responsible for replacing all EpiPens before their scheduled expiration date.
 - ③ School will call 119 after the administration of EpiPen during actual or suspected anaphylactic reaction.

8. No Nuts Policy

Please observe the school-wide “No Nuts” policy for all school events:

We ask you to look at the following websites and special cautions so that you do not accidentally bring nuts, causing possible emergencies for children with allergies.

Please refer to the detailed list at:

<https://www.kidswithfoodallergies.org/tree-nut-allergy.aspx>

<https://www.kidswithfoodallergies.org/peanut-allergy.aspx>

Nuts you should not bring to school:

- Almonds
- Brazilian Nuts
- Cashew Nuts
- Chestnuts
- Hazelnut
- Macadamia Nuts
- Peanuts
- Pecan Nuts
- Pine Nuts
- Pistachios
- Walnut



Nuts come in various forms. Some students are extremely sensitive, and may react to nuts or the following in very small amounts, so make sure to avoid them. For example;

Oils, essences, extracts: Almond extract

Powders: Almond powder, Hazelnut powder

Creams: Peanut butter, Nutella®

Snacks, sweet or savory: Granola with nuts, chocolate sweets with nuts, or rice crackers with nuts, etc.

9. Student Health Check-up

- Height, Body Weight, Internal Examination will be checked twice in a year.
- Health check-up will be scheduled before June 30th according to Japanese School Law.